

教 育 研 究 業 績 書

氏名 善 本 眞 弓

学位 修士 (家政学)

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
子ども学・保育学・幼児教育学	乳児保育 幼児教育 保育環境 子育て支援 玩具論

主要担当授業科目	乳児保育 保育内容総論	子どもと環境	子育て支援特論	保育実習指導Ⅱ
----------	-------------	--------	---------	---------

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
・保育理論の理解のための教材を導入した授業の展開	平成 14 年 8 月～ 現在	・フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー等の保育理論理解のための教材を用意し、提示および学生が体験する授業内容を展開。(保育指導、保育方法、保育原理Ⅱ、保育内容総論)
・コミュニケーションスキルアップのための演習を取り入れた授業方法	平成 15 年 4 月～ 現在	・乳幼児・同僚・保護者とのかかわりに必要なコミュニケーション力を高めるためのアクティビティを演習授業内で実施。(保育指導、保育方法、相談援助、保育相談支援、保育内容総論)
・保育実技、指導計画立案の指導	平成 17 年 4 月～現在	・実習に役立つ保育実技(パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、パペット(腕人形)、製作、折り紙、手作り玩具など)の制作指導、実演指導を行い、同時に要点をとらえた実習指導計画の立案についての指導を実施。(保育実習(事前)指導、教育実習(事前)指導)
・ICT(PowerPoint)を活用した発表指導	平成 18 年 10 月～現在	・卒業レポート発表会(YMCAスポーツ専門学校、YMCA健康福祉専門学校)、実習報告会(北里大学)、保育実践演習発表会(新渡戸文化短期大学)、卒業論文発表会(東京成徳大学)のための研究発表の手順・方法の指導。
・授業外の学習促進のための取り組み 保育実技「パネルシアター」指導	平成 21 年 2 月 平成 22 年 2 月 平成 23 年 2 月 平成 26 年 1 月	・幼児の特性を考慮したパネルシアターのボード及び作品の制作、実演についての特別講座を担当。後日、個別に実演指導を行う。
・小児病棟における病児とのかかわり(遊び)についてのボランティア指導	平成 22 年 9 月 平成 23 年 9 月 ～現在	・病気の子ども・障害のある子どもに関心をもつ学生に、小児病院外来プレイコーナーにおける遊び支援活動の指導を実施。
・乳児保育所と連携した保育学生の手作り人形制作・寄贈のための学生指導	平成 22 年～現在	・学生(希望者)が乳児保育所の通う園児に人形を制作し、寄贈するプロジェクトを実施。学生は特定の一人の子どものための人形を制作する。園児の家庭には布団づくりなどの協力を求め、担当保育士から子どもの様子を聴取し、学生にフィードバックする。学生・子ども・保育士・保護者を間接的に結ぶ取り組みにおける学生の指導。
・学生研究発表のための指導	平成 28 年2月	・全国保育士養成協議会関東ブロック学生研究発表会(大妻女子大学)における発表学生の要旨集原稿・発表原稿・PowerPoint 作成及び発表のための指導を担当。

<p>2. 作成した教科書、教材</p> <p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』 『実習における遊びの援助と展開』 『保育の学びスタートブック』 『エピソードから楽しく学ぼう保育内容総論』 『親から頼りにされる保育者のための子育て支援』 『学び続ける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 『乳児保育 子どもたちの四季』 『講義で学ぶ乳児保育』 『演習で学ぶ乳児保育』 『実践例から学びを深める保育内容・領域環境指導法』 <p>【教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科のレジメ・プリントの作成 	<p>平成 21 年 5 月</p> <p>平成 23 年 5 月</p> <p>平成 24 年 5 月</p> <p>平成 24 年 7 月</p> <p>平成 24 年 7 月</p> <p>平成 26 年 5 月</p> <p>平成 30 年 10 月</p> <p>令和元年 12 月</p> <p>令和2年5月</p> <p>令和3年3月</p> <p>平成 15 年 4 月 ～現在</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「保育実習指導」「保育計画」「保育課程論」のテキストとして使用。 「保育内容総論」「教育実習指導」の参考文献として使用。 「保育内容総論」「保育方法」「乳児保育」において参考教材として使用。 「基礎ゼミ」、初年度教育の教材として使用。保育についての学びをサポート。 「保育内容総論」のテキストとして使用。 「子育て支援特論 I」の参考教材として使用。 「教育実習指導」「保育実習指導」のテキストとして使用。 「乳児保育」参考教材として使用。 「乳児保育 I」教科書として使用。 「乳児保育 I・II」教科書として使用。 「子どもと環境」のテキストとして使用。 「乳児保育」「保育方法」「保育計画」「保育内容総論」「保育指導」「保育実習指導」「教育実習指導」「ゼミナール」「保育」「児童文化 I・II」「おもちゃ論」「保育内容総論」「保育課程論」「保育相談支援」「相談援助」「子どもと環境」等、各授業科目において、授業内容に関する資料、ワークシートを作成。 特に演習科目「保育方法」(和泉短期大学)、「保育」(北里大学)、「保育介護概論(保育分野)」(新渡戸文化短期大学)、「おもちゃ論」(浦和大学・新渡戸文化短期大学・白鷗大学)、「子どもの遊びと育ち」(玉川大学)、「子育て支援特論」(東京成徳大学)ではテキストを使用せず、すべての教材を作成し、「読む・聴く・考える・書く・話し合う・発表する」ことを重視した書き込み式のワークシートを作成して授業を展開している。
<p>3. 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 浦和大学子ども学部設置委員会による評価 浦和大学子ども学部子ども学科設置認可申請教員資格審査認定 	<p>平成 18 年 9 月</p> <p>平成 18 年 11 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「専任教員予定者として、大学、短期大学における教員経験に加えて、保育士、幼稚園教諭としての保育、幼児教育経験を有し、保育及び実習等に関する研究業績を評価し、教育として本学部における教育上の能力を十分に備えたものと判断する。」という評価を得る。 教員資格審査において、「教育実習」「教育実習指導」担当教員として認定。
<p>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>社会福祉法人 亀井野保育園 保母(現:保育士)</p> <p>学校法人 座間孝道幼稚園 幼稚園教諭</p>	<p>昭和 58 年 4 月 ～ 昭和 60 年 3 月 昭和 60 年 4 月 ～ 平成 2 年 3 月</p>	<p>保育所において担任保育者として勤務</p> <p>幼稚園において担任教諭として勤務 内 3 年間は主任教諭兼務</p>

<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃインストラクター養成講座講師 ・新戸部文化短期大学「専門性スキルアップ講座」講師 ・新渡戸文化短期大学公開セミナー講師 ・東京成徳大学公開講座講師 	<p>平成 25 年 9 月 平成 26 年 6 月 平成 27 年 9 月 平成 28 年 9 月</p> <p>平成 26 年 2 月 平成 27 年 2 月</p> <p>平成 26 年 10 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新渡戸文化短期大学の学内において「おもちゃインストラクター養成講座」を導入し、講師を担当。 ・新渡戸文化短期大学 こども教育研究所・社会人教育実施委員会主催の現職保育者を対象にした「専門性スキルアップ研修会」において講師を担当。 テーマ:「乳幼児の自発的な遊びを促す玩具 かんたん楽しい手作り玩具」 同「専門性スキルアップ研修会」において講師を担当。 テーマ:乳児保育を新たな視点で「乳児の遊び環境と援助-自発的な遊びと発達を保障するおもちゃ・保育室・保育者の援助」 ・新渡戸文化短期大学 新渡戸際・公開セミナーにおいて「玩具の魅力 赤ちゃんから高齢者まで」の講師を担当。 ・東京成徳大学子ども学部公開講座において「おもちゃの魅力・遊びの力」の講師を担当。
---	---	---

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<p>1. 資格、免許</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教諭二種免許状 保母(現:保育士)資格 幼稚園教諭一種免許状 幼稚園教諭専修免許状 おもちゃコンサルタント おもちゃコンサルタント・マスター 	<p>昭和 58 年 3 月 昭和 58 年 3 月 平成 14 年 6 月 平成 16 年 11 月 平成 18 年 7 月 平成 19 年 9 月</p>	<p>昭 57 幼二普第 3157 号 第 3040 号 平 14 幼一第 0017 号 平 16 幼専修第 0003 号 特定非営利法人日本グッド・トイ委員会認定資格 特定非営利法人日本グッド・トイ委員会認定資格</p>
<p>2. 特許等</p>		<p>特になし</p>
<p>3. 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習における学生指導 ・教育実習における学生指導 ・地域子育て支援施設サポーター研修会講師 ・小児科における子育て支援講座講師 ・大和市乳幼児家庭教育セミナー講師 	<p>昭和 59 年度 昭和 60 年度～平成元年度</p> <p>平成 14 年 9 月 19 日</p> <p>平成 16 年 11 月～21 年 1 月</p> <p>平成 17 年 6 月 3 日</p>	<p>保育所勤務時に短期大学からの実習生の指導を担当。幼稚園教諭として短期大学生の教育実習指導を担当。</p> <p>特定非営利活動法人びーのびーの(地域子育て支援施設)のサポーターを対象にした「乳幼児と絵本」「子どもと絵本のかかわり」「絵本の読み聞かせ」に関する講座の講師を担当。</p> <p>小児科(横浜市港北区 太尾こどもクリニック)において、家庭で子育てをする0・1・2歳児の親を対象にした「赤ちゃん講座」(テーマ:赤ちゃんと遊ぼう, 赤ちゃんと絵本のかかわり, 読み聞かせ, 生活リズム, ほめ方・しかり方, 幼稚園選びと入園準備, 手作りおもちゃ, 遊びほか)の講師を担当。</p> <p>・「すてき育児 2005 子育てを楽しもう! ～元気なこどもに育てよう!」をテーマに、家庭で子育てをする未就園児を持つ母親を対象にした「ほめ方・しかり方」講座を担当。</p> <p>・「すてき育児 2005 子育てを楽しもう! ～元気なこどもに育てよう!」をテーマに、家庭で子育てをする未就園児を持つ母親を対象にした「ほめ方・しかり方」講座を担当。</p>

・大和市乳幼児家庭教育セミナー講師	平成 17 年 6 月 10 日	・同講座「生活リズムの大切さ・整え方」講座を担当。
・不登校児と親のためのサークルスタッフ研修会講師	平成 20 年 11 月 18 日	・横浜市港南区地域ケアプラザにて、不登校の親のサークル「千の夢」のスタッフを対象にした研修会「不登校の子どもとかかわるおもちゃ～コミュニケーションおもちゃ」の講師。
・子育て支援サークル講演会「おもちゃを学ぼう」講師	平成 21 年 6 月 13 日	・横浜市港南区地域ケアプラザにて、子育て支援団体「子育てまち育て塾」の講演会において、スタッフおよび乳幼児を持つ親を対象に、「発達とおもちゃ」「おもちゃの選び方」「家庭でのおもちゃの扱い方」「質のよいおもちゃの紹介」などの講座を担当。
・YMCA 保育所職員研修講師	平成 21 年 4 月 4 日	YMCA とつか乳児保育園職員研修講師。 「低年齢児の保育室のおもちゃと遊び環境」
	平成 22 年 2 月 22 日	「0・1・2歳児のおもちゃと遊び pzrt1」
	平成 22 年 3 月 24 日	「0・1・2歳児のおもちゃと遊び part2」
	平成 25 年 8 月 30 日	「0・1・2歳児のおもちゃと遊び、保育室の環境構成と保育士のかかわり」
	平成 26 年 2 月 25 日	YMCA とつか保育園職員研修講師。 「保育における玩具と遊び、環境設定と保育者のかかわり」
	平成 29 年 9 月 22 日	YMCA 東とつか保育園職員研修講師。 「子どもの豊かな遊びを支える保育環境～おもちゃ・保育室の環境・保育者の援助」
・おもちゃコンサルタント・マスター養成講座講師	平成 21 年～ 現在	・東京おもちゃ美術館において、おもちゃコンサルタント・マスター養成講座の「病児とおもちゃ」「おもちゃコンサルタント・マスターとしての活動・病児・地域・おもちゃ」についての講義を担当。
・おもちゃインストラクター養成講座講師	平成 21 年 ～現在	・湘北短期大学, 上智社会福祉専門学校, 新渡戸文化短期大学, 帝京大学, 東京家政学院大学, 東京おもちゃ美術館等において、学生および社会人を対象におもちゃインストラクター養成講座の講義と演習を担当。
・おもちゃコンサルタント養成講座講師	平成 22 年～現在	・東京おもちゃ美術館において、おもちゃコンサルタント養成講座の「おもちゃリサーチ研究報告」および「グッド・トイ選考」「子どもの発達とおもちゃ」についての講義を担当。
・日本ベビーサイン協会関東勉強会講師	平成 22 年 10 月 29 日	・ベビーサイン講師を対象に、女性と仕事の未来館(港区)にて、「パネルシアター」についての講義と製作・実演指導を担当。
・玩具福祉学会玩具療法士養成セミナー講師	平成 22 年 11 月 20 日	・第 3 回玩具療法士養成セミナー(子どもの城)において「病院内のこどものおもちゃと遊び」について講義を担当。
・おもちゃコンサルタントスキルアップ講座講師	平成 22 年 11 月 28 日	・東京おもちゃ美術館にて「病児の遊びとおもちゃ」の講座を担当。
・芸術教育研究所「夏の芸術教育学校」講師	平成 23 年 7 月以降毎年7月～現在	・中野サンプラザにおいて、現職の幼稚園教諭・保育所保育士を対象にした保育の場で実践できる「0・1・2 歳のパネルシアター」「子どもとつくるパネルシアター」「保育で楽しむパネルシアター～制作とさまざまな活用法を学ぶ～」1 日講座(講義と製作・実演指導)を担当。
・日本グッド・トイ委員会 グッド・トイ選考運営委員会勉強会講師	平成 24 年 3 月 25 日	・東京おもちゃ美術館にて「ままごとの道具と遊び」についての講義を担当。
・入院児のための活動サークル勉強会講師	平成 24 年 6 月 2 日	・東邦大学医療センター大森病院・ひだまりの会(ボランティアサークル)スタッフおよび患児の保護者、看護学生、保育関係者を対象に「病児の遊びとかかわりの留意点」「家庭におけるおもちゃの選び方・扱い方」についての講義を担当。

・横浜市社会福祉協議会 横浜子育てサポートシステム提供・両方会員予定者研修会講師	平成 24 年 7 月 ～現在	・横浜市社会福祉協議会が主催する、地域の子育て支援制度の預かりおよび預ける方を対象とした講座の「発達と生活～年齢による生活習慣について」、0歳から就学前乳幼児の発達と生活習慣、関わり方などの講義を担当。
・保育所職員・父母の会合同勉強会講師	平成 24 年 11 月 16 日	・東邦大学医学部付属東邦大学保育園にて、「0 歳から就学前までの子どもの発達と遊び～遊びを支える玩具」についての講義を担当。
・	平成 25 年 11 月 22 日	・東邦大学医学部付属東邦大学保育園にて、「0 歳から就学前までの子どもの発達と遊び～遊びを支える玩具」についての講義とワークショップを担当。
・地域子育て支援施設研修会講師	平成 25 年度～ 現在	・横浜市神奈川区の地域子育て支援の広場「すくすくらんど」「ひだまり」などの子育て支援者を対象にした研修会にて「0・1・2歳児の子育て支援・子育て支援」「子育て広場における子育て支援～子育て支援者に求められること」など、乳幼児の発達、現代の子育て状況、支援についてなどの講義を担当。
・「春の芸術教育学校・アートフォーラム」分科会助言者	平成 27 年 2 月 22 日	・現職の幼稚園教諭・保育所保育士を対象にした、1年間の表現活動を振り返り、豊かな保育をめざす研修会における分科会（実践から学ぶ乳幼児の表現活動報告）おもちゃ分野の助言者を担当。（芸術教育研究所主催）
・グッド・トイ 2015in ひろさき研修会講師	平成 27 年 11 月 22 日	・青森グッド・トイ委員会主催の研修会「グッド・トイを学ぼう～多様なおもちゃの活用法～」の講師を担当（青森県弘前市ヒロロにて）。
・グッド・トイカフェ講師	平成 28 年 1 月 30 日	・岐阜県・岐阜産業会館における「クラシド 2016」において、演題「グッド・トイとは何？～おもちゃの選び方・遊び方」について講演。
・帝京大学教育学部初等教育学科子ども教育コース卒業生の集い第1部講演会講師	2 月 14 日	・帝京大学八王子キャンパスにて教育学部初等教育学科子ども教育コースの卒業生を対象に、「保育における遊び環境と援助-自発的な遊びと発達を保障するおもちゃ・保育室・保育者の援助」についての講師を担当。
・学童保育スタッフ研修講師	3 月 4 日	・YMCA とつか学童クラブの学童指導員を対象に、学童の遊び～環境構成・玩具と援助についての研修講師を務める。
・二葉保育園・白旗保育園福祉会研修会講師	10 月 7 日	・二葉保育園・白旗保育園（神奈川県藤沢市）にて保育士を対象に「保育の質を考える～子どもたちの豊かな遊びと生活を保障する環境構成と保育者の援助～」についての講師を担当。
・講師交流会講師	平成 29 年 10 月 7 日	・明日葉保育園第三戸塚園にて保育士を対象に「子どもの豊かな遊びを支える保育者の援助」について講師を担当。
・「神奈川県保育エキスパート等研修」講師	11 月 23 日	・アルカディア市ヶ谷私学会館にて、芸術と遊び創造協会講師を対象に「乳児の遊び環境と援助～子どもの豊かな育ちを支える保育者の視点」について講師を担当。
・認定 N P O 法人芸術と遊び創造協会 2017 年度芸術と遊び研究講師交流会第1部セミナー講師	平成 30 年 2 月 3 日	・ココファン・ナーサリー川崎大師保育園において保育士を対象に「子どもの豊かな育ちと遊びの重要性」についての講師を担当。
・ココファン・ナーサリー川崎大師保育園園内研修講師	3 月 10 日 11 月 18 日	・新渡戸文化短期大学において、地域の親子を対象に「幼児期の非認知能力の育み方～親子で遊ぼう手作りおもちゃ」の講義と演習の講師を担当。
・中野区地域連携講座「子育て講座」講師	7 月 26 日	・北区立桜田北保育園にて「低年齢児の豊かな遊びのための環境づくり」の講師を担当。
・北区立桜田北保育園園内研修講師	9 月 27 日	・同保育園にて「幼児のための豊かな遊びのための環境づくり」について講師を担当。
・平成 30 年度足立区「幼児教育推進研修 B エリア研修」講師	10 月 18 日 10 月 25 日 平成 31 年 1 月 17 日 1 月 24 日	・足立区立上沼田保育園・本木保育園・鹿浜子ども園第一園舎（2 回）にて、足立区 B エリア保育士を対象に「こども理解を深める-受容的・応答的な保育者の関わり」について講師を担当。

<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区「子ども福祉研修」講師 ・足立区就学前教育推進課「平成31年度足立区教育委員会年齢別担任研修(2歳児)」講師 ・足立区子ども施設入園課「3歳未満児保育者実務研修」講師 ・東京成徳短期大学附属幼稚園父母の会「おとうさんおかあさんの為の講演会」講師 ・「神奈川県保育エキスパート等研修」講師 ・豊島区立駒込第一保育園園内研修講師 ・川口市保育士会研修会講師 ・北区非常勤保育士研修会講師 ・足立区立梅田保育園園内研修講師 ・新宿区立弁天町保育園園内研修講師 ・足立区「幼児教育研修:2歳児担任研修」講師 ・認定絵本土養成講座講師 ・足立区職員育成研修講師 	<p>平成30年 11月8日</p> <p>令和元年 6月27日 9月19日 10月24日 11月21日 令和2年 1月31日 令和元年 7月5日</p> <p>7月13日</p> <p>9月3日 9月26日 11月28日</p> <p>10月3日</p> <p>12月12日</p> <p>令和2年 1月27日 2月13日</p> <p>2月25日</p> <p>7月20日 9月17日 12月17日</p> <p>9月5日</p> <p>12月3日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島区役所にて豊島区内の保育所に勤務する保育士を対象に「子どもの豊かな育ちと保育環境について」の講師を担当。 ・ギャラクシティこども未来創造館、足立区立梅田保育園、足立区立いりや第二保育園、足立区立六木保育園、足立区立本木保育園にて各エリア内の2歳児担当保育士を対象に「2歳児保育の実践:子ども理解を深める-2歳と3歳が混在する「2歳児クラス」の保育のあり方を考える-」の講師を担当。 ・足立区役所庁舎ホールにて足立区内の保育所保育士・家庭的保育者・補助者・を対象に「0・1・2歳児の発達を支える生活と遊びの環境～子どもの豊かな育ちのために～」について、子ども(3歳未満児)の安全と環境についての研修講師を担当。 ・東京成徳大学附属高等学校講堂にて「幼児期に大切にしたいこと～非認知能力の育み方と遊びの重要性～」についての講師を担当。 ・日本丸訓練センター、厚木文化会館、てくのかわさきにて、「神奈川県保育士等キャリアアップ研修」に基づき、乳児保育部門「保育実践」分野「子ども(3歳未満児)の保育における環境構成と子どもとの関わり方」について、保育現場におけるリーダー的職員を対象にした研修会講師を担当。 ・豊島区駒込第一保育園にて「保育室の環境設定のポイント」についての講師を担当 ・川口市並木公民館にて川口市公立保育士の研修会「子どもと遊ぶ・子どもが遊ぶ」の講師を担当。 ・きたとびあにおいて「子どもの遊びと環境～子どもの豊かな育ちのために」について講師を担当。 ・足立区立梅田保育園園内研修「子どもの育ちと保育者のかかわり」についての講師を担当。 ・新宿区立弁天町保育園園内研修「子どもにとってよりよい環境とは」について講師を担当。 ・足立区勤労福祉会館、竹の塚地域学習センターにて足立区内の公私立保育園2歳児担任を対象に「2歳児の遊びを通して保育者の関わりを考える～子どもの行動を通して心の動きを知る～」についての講師を担当。 ・日本女子大学家政学部児童学科(目白キャンパス)において「認定絵本土養成講座」「ホスピタリティに学ぶ:人を楽しませる手法を学ぼう」の講師を担当。 ・ギャラクシティこども未来創造館にて、足立区内の幼稚園・認定こども園・認可保育所・小規模保育所・認証保育所・企業主導型保育所の足立区在職5年未満の保育者を対象に「子どもの権利と尊重～保育の基本を学ぶ～」についての講師を担当。
4. その他		

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』(再掲)	共著	平成 21 年 5 月 20 日	萌文書林	執筆者：久富陽子, 梅田優子, 小櫃智子, 善本眞弓, 飯塚朝子 執筆担当箇所： pp.49-64 PART2第2章「2. 保育所(異年齢児保育)での指導案を例に」 pp.98-114 PART3第2章「5.ペープサート」「6.パネルシアター」「7.エプロンシアター」「8.表現遊び—スタンピング」 pp.163-195 PART3第4章「【保育所実習】 全日(責任)実習の指導案の実例と検討」 概要：改訂幼稚園教育要領・保育所保育指針の内容を踏まえ、幼稚園・保育所の実習における指導計画の考え方・立て方について解説した。 保育所の異年齢保育の指導案・全日(責任)実習指導案・部分実習指導案の立案について、実例と修正例を提示し丁寧に解説した。
2. 『実習における遊びの援助と展開』(再掲)	共著	平成 23 年 5 月 11 日	萌文書林	執筆者：久富陽子, 小櫃智子, 善本眞弓 執筆担当箇所：Practice 実践 pp.53-64「4粘土」、pp.65-76「5積み木」、 pp.77-88「6ブロック」、pp.125-136「10 ままごと」、 pp.137-148「11 水遊び」、pp.149-160「12 自然とのかかわり」 概要：幼稚園・保育所など保育の場で展開される子どもの自由な遊び 12 種類を取り上げ、援助のポイント・事例・遊びの読み取り・実習生の具体的な援助などについて解説した。 各遊びについて全体的な「援助のポイント」「Q&A」について解説し、低年齢児・3歳児・4歳児・5歳児の具体的事例をあげ、遊びの見方や援助について解説しチェックポイントをまとめた。

<p>3. 『保育の学びスタートブック』(再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 5 月 17 日</p>	<p>萌文書林</p>	<p>執筆者：久富陽子, 善本眞弓, 片川智子, 金瑛珠, 坪井瞳, 大村あかね 執筆担当箇所： PART1おさえたい！保育の基本 p.8 子ども p.9 topic 子どもと楽しむ保育実技① PART2知りたい！保育の実際 pp.40-41 幼稚園・保育所の一年 p.43 topic 子どもと楽しむ保育実技② pp.44-45 幼稚園・保育所の行事・記念日 pp.52-53 行事の展開 pp.54-55 topic 季節ごとのテーマ・風物詩 pp.56-59 保育の表現技術 PART4身につけたい！生活と仕事のマナー pp.100-101 食事と睡眠の自己管理 pp.102-104 実習での見出しなみ pp.105-107 声の大きさと話し方 pp.108-110 立ち居振る舞い pp.111-113 電話のかけ方 pp.114-115topic 敬語 pp. 120-125 履歴書の書き方 概要：保育者養成校入学予定者の自己学習及び 新入生ガイダンス等で学んでおきたい保育の 基本、幼稚園・保育所の理解・授業の受け方、 保育学生としてのマナーなどを解説し、書き込 み式ワークシートを作成した。</p>
<p>4. 『親から頼りにされる保育者の子育ち支援 - 気になる子ども、気になる親も一緒に保育 - 』</p>	<p>共著</p>	<p>平成 24 年 7 月 20 日</p>	<p>黎明書房</p>	<p>執筆者：太田和洋, 安梅勅江, 津村薫, 竹外志保子, 前田泰弘, 星順子, 善本眞弓, 木原有紀 執筆担当箇所： pp.73-83 第3章子育ち支援, 親支援の実践術 2 子育てひろばの子育ち支援・親支援 ①子育てひろばの“気になる子, 気になる親” ②気になる親への理解と支援のアプローチ 概要：子育て広場に参加する親子への支援者の 関わり方について解説する。 「子どもを見ない・子どもと遊ばない親」「関わりにく い雰囲気のある親」「子どもの発達や子育てに不安をも つ親」「ルールを守らない親」「子どもに手をあげ る・激しく叱る親」「子どもに手をかけ過ぎる親」の6 種の具体的事例をあげ、支援者が親を理解するた めの考え方・受け止め方、支援者から親または子 どもへのアプローチの仕方を解説している。</p>

<p>5.『エピソードから楽しく学ぼう 保育内容総論』(再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 25 年 3 月 25 日</p>	<p>創成社</p>	<p>執筆者：福崎淳子、山本恵子、及川留美、 <u>善本真弓</u>、寒河江芳枝、伊勢玲奈 執筆担当箇所および概要： pp.19-48「第2章 保育内容の歴史の変遷について学ぼう」 概要：わが国の幼稚園・保育所の創始（明治時代）から現在までの保育内容の変遷（幼稚園保育及設備規程、保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針）について、時代背景やその時代の思想などを含めて解説している。 pp.85-116「第4章 保育内容における遊びの意義について考えてみよう」 概要：幼稚園教育要領における遊び、保育所保育指針における遊びの考え方、遊びの必要性、各種遊び論について解説した。続いて、保育における一斉保育における遊び、自由な遊びと保育者の援助などについてエピソードをあげて解説し、最後に遊びの場面で保育者に求められることについてまとめた。</p>
<p>6.『学び続ける保育者をめざす実習の本』(再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 26 年 5 月 29 日</p>	<p>萌文書林</p>	<p>執筆者：久富陽子、<u>善本真弓</u>、五十嵐裕子、堀科 執筆担当箇所： 第1部 実習の前に pp.6-12 「2実習で出会う子どもたち」 概要：0歳から18歳までの心身の発達についてまとめた。また、発達障害など特別な支援が必要な子ども、外国人の子どもについて解説した。 pp.13-17 「3実習に必要な心構え」 概要：実習園や施設が求める実習生について解説した。 pp.18-19 「4実習先について知る・保育所」 概要：保育所の実習で学びたいことについて解説した。 第2部 実習の進め方 2実習中に pp.49-55 「指導計画」(指導案) 概要：指導計画の作成・作成前の注意事項・作成の手順・考え方・書き方について解説した。 pp.56-57 「実習中に困った！」 概要：遅刻、体調不良、子どものケガやかかわりなど、実習中の困難について解説した。 pp.58 「実習生が気をつけること」 概要：守秘義務・個人情報の保護等、実習中の注意事項について解説した。 付録 pp.72-81 「実習に生かせる楽しい保育実技」 概要：幼稚園・保育所実習ですぐに行える自己紹介、手遊び、表現遊びの実例を紹介した。 pp.82-90 弾ける！超かんたん楽譜集 概要：保育の場で歌われる曲のピアノ伴奏を初心者向けに編曲して紹介した。</p>

7.『乳児保育 子どもたちの四季』	共著	平成 30 年 10 月 1 日	大学図書出版	執筆者:星順子 片川智子 <u>善本眞弓</u> 大下純 水枝谷奈央 他 pp.20-29 第4章0歳児クラスの春:第3節「この時期 の発達の特徴と関わりのポイント」第4節さらに学び を深めるために」 pp.32-38「第5章0歳児クラスの夏:第3節「この時 期の発達の特徴と関わりのポイント」第4節さらに学 びを深めるために」 0歳児クラスの春・夏の時期の子どもの発達の特徴 と保育者の援助、保育環境、生活習慣、遊び等に ついての要点を挙げて解説した。
8.『講義で学ぶ乳児保育』	共著	令和元年 12 月 15 日	わかば社	執筆者:小山朝子 亀崎美沙子 <u>善本眞弓</u> pp.82-101「第7回乳児の生活の基本」0・1・2 歳児 の食事、睡眠と休息、排泄、着脱、清潔について の発達及びに発達に即した保育者の援助につい て解説した。 pp.102-115「第8回乳児の遊び」具体的な遊びの 姿を紹介しながら発達及び保育者の援助につい て解説し、具対的な玩具について表を作成し、わ かりやすく提示した。 pp.116-123「第9回「乳児保育の環境構成」0・1・2 歳児の保育室の環境構成と配慮について、環境 構成図を用いて具対的に解説した。
9.『エピソードから楽しく学ぼう人間関係』	共著	令和2年 5月 10 日	創成社	執筆者:及川瑠美 西井宏之 柳瀬洋美 <u>善本眞 弓</u> pp.35-67 第3章「0・1・2 歳児の人間関係の育ちと 保育」保育所保育指針を中心に 3 歳未満児の人 間関係の育ちに関わる専門的事項及び発達に即 した事例を紹介しながら人間関係の育ちと保育に ついて解説した。 pp.69-79 第4章第 1 節「3 歳以上児の人間関係の 育ちと保育」3歳以上じの自己の育ちと人との関わり に関する発達を年齢別にエピソードを紹介しなが ら解説した。
10.『演習で学ぶ乳児保育』	共著	令和2年 5 月 30 日	わかば社	執筆者: <u>善本眞弓</u> (編著)小山朝子 亀崎美沙子 p. 1「まえがき」 pp.8-10「本書で学ぶこと」 pp.14-101「第 1 回乳児保育の意義」乳児保育の意 義、基本的事項、保育者の姿勢、保育の考え方等 について解説した。 pp.20-101「第 2 回 0～3歳までの発育・発達」各年 齢のおおよその発達の目安を示し、保育者の援 助、保育要点について解説した。pp.50-59「第 4 回 排泄の援助と環境」おむつ交換から排泄の自立に 向かう時期の発達と必要な援助について解説す る。 pp.60-67「第 5 回睡眠・休息の援助と環境」睡眠に 関する発達と援助について解説した。 pp.98-105「第 9 回乳児(0歳児)の保育内容と遊 び」 pp.106-113「第 10 回「1歳以上3歳未満児の 保育内容」 pp.114-119、第 11 回「1歳以上3歳未 満児の遊び」0～3歳までの発育・発達に即した保 育内容と遊びについて解説した。

<p>11.『実践例から学びを深める保育内容・領域 環境指導法』</p>	<p>共著</p>	<p>令和3年 3月28日</p>	<p>わかば社</p>	<p>執筆者:小櫃智子 小山朝子 相楽真樹子 善本眞弓 北澤明子 福田篤子 Part2保育の展開と指導法を学ぼう pp.48-59「第1章 ものとかかわりの実践について学ぼう」保育内容・領域「環境」における子どものものとかかわりの基本事項について解説し、乳児・1歳以上3歳未満児、3歳以上児の事例をあげて丁寧に解説した。さらに主体的・協働的な学びの演習:アクティブラーニングの手法について提示した。 pp.94-103「第4章 標識・文字とのかかわりの実践について学ぼう」保育内容・領域「環境」における子どもの標識・文字とのかかわりの基本事項について解説し、乳児・1歳以上3歳未満児、3歳以上児の事例をあげて丁寧に解説した。さらに主体的・協働的な学びの演習:アクティブラーニングの手法について提示した。</p>
<p>(学術論文) 1「乳児を持つ親への子育て支援プログラムの構築-乳児健診の『子育て相談』と連携した『子育て講座』の提案</p>	<p>単著</p>	<p>平成19年 3月15日</p>	<p>和泉短期大学研究紀要 第27号</p>	<p>pp.35-43 小児科で行う乳児健康診査時の「子育て相談」における、生後13ヶ月未満の子どもを持つ親の相談事項等を分析した。 その結果、親の半数以上が何らかの不安を持っていることが明らかになった。不安の内容を以下の4つの項目、乳児の「成長・疾病」「運動・発達」「心理・行動」などの生活習慣、親の日常的な子どもへのかかわり「育児方法」に分類し、これらを組み込んだ、乳児健診と連携した「子育て講座」の実践的なプログラムを提案した。</p>
<p>2「家庭における低年齢児のおもちゃ-親の玩具意識と現状」</p>		<p>平成20年 3月15日</p>	<p>和泉短期大学研究紀要 第28号</p>	<p>pp.9-20 0・1・2歳児を持つ親を対象に、親のおもちゃに関する意識、および家庭にあるおもちゃを素材別に調査し、家庭における低年齢児のおもちゃ環境について分析した。その結果、ほぼ全家庭にプラスチック製のおもちゃがあったが、安全性を重視する親はほぼ半数で、おもちゃの知識・本質的な理解に乏しいことが確認された。保育の場・子育て支援の場において、親にも質のよいおもちゃに触れる機会を提供し、理解や積極的な選択を可能にする機会を提供する必要性を述べた。</p>
<p>3「保育学生の社会的スキル-保育学生の特徴と保育者養成に求められる教育」</p>	<p>共著</p>	<p>平成21年 3月15日</p>	<p>横浜女子短期大学研究紀要 第29号</p>	<p>pp.27-38 善本孝、善本眞弓 保育者養成課程在籍の短期大学生を対象に社会的スキルに関する質問紙調査を実施し、非保育学生との比較から、保育者養成に求められる社会的スキルについて 検討した。表面的・基本的スキルを身につけているものは多いが、逆行への抵抗力、積極性・自己主張性、課題達成などのスキルに弱さが見られた。学生の社会的スキルの認識を高め、自己主張・課題解決能力の向上を視野に入れた授業の展開が求められることを明らかにした。</p>

4「おもちゃを活用した子育て支援『おもちゃの広場』の独自性」	単著	平成 21 年 3 月 15 日	和泉短期大学研究紀要 第 29 号	pp.63-72 おもちゃに重点をおいた子育て支援活動「おもちゃの広場」の開催者に聞き取り調査を実施した。「おもちゃの広場」の独自性は、よいおもちゃの提供とおもちゃに関する専門性を持つスタッフがいることである。また、参加者がおもちゃや遊びの楽しさを感じ、おもちゃや遊びの重要性に気づく場になっていること、(最近希薄であるとされる)親と子のかかわりをサポートできる場になっていることが検証された。
5「通院児への遊び環境の提供-外来『おもちゃの広場』の有用性」		平成 22 年 3 月 15 日	和泉短期大学研究紀要 第 30 号	pp.41-49 長期的な通院を必要とする子どもが通う病院の外来プレイコーナーで開催される「おもちゃの広場」の有用性を検討した。その結果、子どもが質のよいおもちゃにふれる機会、家族やそれ以外の他者とかわる機会、不安や緊張が軽減する場になっていることが確認された。家族自身のおもちゃへの関心、待ち時間の苦痛の軽減なども確認され、通院児と家族に遊び環境(場・人・もの)を提供することは有用であることが認められた。
6. 「教育実習(幼稚園)における効果的な実習指導のあり方 I -事前指導の内容と巡回指導に対する学生の要望-」	共著	平成 29 年 12 月 22 日	東京成徳大学子ども学部紀要第7号	pp.49-59 善本眞弓,山路千華,野田日出子 幼稚園教諭養成課程で学ぶ幼稚園教育実習を終了した学生に、事前指導、実習中の教員による巡回指導についての質問紙調査を実施した。事前に指導として「教材研究・開発」「日誌の書き方」「指導案の書き方」「模擬保育」があげられ、それらが連動した授業内容の構築の必要性があること、さらに、実習中の巡回指導については巡回を担当する教員に巡回の意義を伝え意識の向上を図る必要があることが明らかになった。
7. 「教育実習評価票の分析-幼稚園教諭養成課程を持つ大学が学生に期待する『実習における学び』とは何か-」	共著	平成 31 年 3 月 12 日	東京成徳大学子ども学部紀要第 9 号	pp.15-22 坪井瞳, 善本眞弓, 山路千華 幼稚園教諭養成課程をもつ4年制大学 10 校の教育実習(幼稚園)評価票の項目を分類・検討した。「資質」「実践の基礎能力」「子ども・発達理解」「しどいう計画の立案」の4カテゴリーが生成され、各養成校の特徴は「資質重視型」「子ども・発達理解型」「計画立案・実践力重視型」「バランス型」に分類された。養成校における授業や実習指導のみでは涵養されない「私的領域」に関する事項も評価内容には含まれている。各項目の評価内容の比重は各養成校の特色でもあり、教育内容や養成したい教諭像の異なりでもある。

8.「保育内容・領域『環境』のとらえ方-保育所の計画をもとに」	共著	平成 31 年 3月 12 日	東京成徳大学子ども学部紀要第 9 号	pp.61-72 善本眞弓,小山朝子 保育所における全体的な計画、年間指導計画から保育所保育指針に示された領域「環境」の内容「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を照合して考察した。指針に基づき1歳以上3歳未満児では6項目、3歳以上児は12項目として照合した結果、1歳以上3歳未満児の計画には「近隣の人や保育所以外の人との触れ合いや交流、地域文化に触れる内容」が希薄であり、3歳以上児においては「身近な物等の比較・試行・工夫」「情報・施設」「(保育所以外の)行事と国旗への親しみ」についての記載が少ない結果であった。全体的に自然に関するもの、季節感や動植物など、比較的わかりやすい内容が盛り込まれやすく、主体的で対話的で深い学びにつながる見えにくい内容について取り上げることが難しいことが推察された。
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) 【口頭発表】 1.「保育者としての男性への子どもからのかかわり」 2.「男性保育者への期待 ー同一園内における期待の『一致』と『ずれ』」	単独 単独	平成 17 年 5月 21 日 平成 18 年 5月 20 日	日本保育学会第 58 回大会 (大妻女子大学) 日本保育学会第 59 回大会 (浅井学園大学)	保育所の男性保育者に対する子どもからのかかわりについて、園長・男女の保育士に聞き取り調査を実施し、スクリプトを作成し分析した。子どもからのかかわりは、激しさ・強さを伴うかかわり、密着したスキンシップ、身体的特徴への注目の「身体的」なかかわりと、友だち意識・ライバル意識、父性的意識、性差を意識した態度の「精神的」なかかわりにぶんるいされる。子どもは男性らしさだけを求めるのではなく、多面的なかかわりを求めていることが明らかになった。 同一保育所に勤務する園長・男女保育者に聞き取り調査を実施し、三者間の男性の保育者に対する期待の一致について考察した。 園長と男性の保育者の期待はほぼ一致し、保育実践の質が高まっていることが推察された。一方、男女の保育者の一致度はやや低く、男性の保育者の増加・定着には男女の保育者の意識の「ずれ」を解消する努力が必要であることが明らかになった。
3「乳児を持つ親の子育て不安-乳児健診における発達相談の内容分析」	単独	平成 19 年 5月 19 日	日本保育学会第 60 回大会 (十文字学園女子大学)	小児科の乳幼児健診を受診した満 13 ヶ月未満の親の発達相談記録を集計・分析し、15 年前の調査結果と比較・検討した。 相談内容について、15 年前と比較して、子どもの性的問題(アレルギー系の心配等)や運動の発達(寝返り・おすわり・はいはい等)について不安や心配を持つ親が増加しており、特に生後9ヶ月児までの親にその傾向が顕著であることが明らかになった。子育て講座の開催、子育て支援施設の参加勧奨などを提唱した。

<p>【ポスター発表】 4「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅰ」</p>	<p>共同</p>	<p>平成 17 年 5 月 21 日</p>	<p>日本保育学会第 58 回大会 (大妻女子大学)</p>	<p>高橋利子、善本眞弓 保育者養成課程で学ぶ男子学生に対する保育現場受け入れについて、男女保育学生の保育所実習における評価を比較・分析した。その結果、男女学生間の「子どもとの関係」「実践上の方法技術」「全体的な実習態度」「総合評価」について顕著な差は認められなかった。しかし「保育目標の理解」「保育計画の立案」「保育記録の記述(実習日誌)」など「書く」ことに関する面が男子学生に不足していることが明らかになった。</p>
<p>5「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅱ」</p>	<p>共同</p>	<p>平成 18 年 5 月 21 日</p>	<p>日本保育学会 第 59 回大会 (浅井学園大学)</p>	<p>尾上佳代、善本眞弓 男子保育学生の実習受け入れについて、第1回保育所実習終了後の学生に質問し調査を実施した。実習園の男性用設備は不十分であったが、実習内容及び0歳児クラスへの配属に男女差は見られなかった。力仕事、ダイナミックな遊び、運動遊び等については、男子の方が園からの期待を感じており、5歳児クラスへの配属は男子が2割上回っていた。しかし、男子の採用・実習受け入れに難色を示す園が理由としてあげる「男性用設備の不備」「モデルとなる男性保育者の不在」は、男子学生にとっての「困難」ではないことが明らかになった。</p>
<p>6「男子保育学生の実習・就職に関する研究Ⅲ-男子保育学生はいかに保育職を目指していくのか」</p>	<p>共同</p>	<p>平成 19 年 5 月 19 日</p>	<p>日本保育学会 第 60 回大会 (十文字学園女子大学)</p>	<p>尾上佳代、善本眞弓 保育者養成課程で学ぶ学生を対象に、入学時と第一回保育所実習終了時点の進路希望、保育職に関する不安について質問紙調査を実施した。男子学生の5割が入学時に「子どもが好き」という理由で希望進路に保育所をあげていたが、実習経験を経て、自らの適性や経済面(低い収入)への不安、他職種への興味をあげ、実習終了後には3割弱に減少することが明らかになった。</p>
<p>7. 「小児科における子育て講座の意義-乳児健診と連携した単独講座と連続講座」</p>	<p>単独</p>	<p>平成 20 年 5 月 18 日</p>	<p>日本保育学会 第 61 回大会 (名古屋市立大学)</p>	<p>小児科で実施した子育て講座(低年齢児対象)について、単独講座(テーマ選択型)と、連続講座(0歳児対象)の参加者の意識を、終了後の質問紙から分析した。単独講座はテーマ選択参加であるため、疑問や困難を抱えて参加が多いので個別の困難等への対応に有効である。0歳児対象の連続講座には、生後1年までの全般的な子育てに関する不安のサポート、メンバー相互の交流(子育ての仲間作り)をサポートする意義が見いだされた。</p>
<p>8「おもちゃを通じた病児支援-通院児への遊び環境の提供の意義」</p>	<p>単独</p>	<p>平成 21 年 5 月 17 日</p>	<p>日本保育学会 第 62 回大会 (千葉大学)</p>	<p>小児病院における通院児と家族を対象にしたおもちゃと遊びのサポート活動「おもちゃの広場」について、子どもの様子・家族の様子などの活動記録を分析した。 「おもちゃの広場」は病気や障がいのある子どもや家族にとって、多様なおもちゃ遊びにふれる機会、病状や発達に合ったおもちゃで遊ぶ機会、家族以外の他者とかわる機会になっていることが明らかになった。地域活動等に参加しにくい親にとっても、安心できる遊びの場になっている等の意見が見いだされた。</p>

9「2歳児と自分の人形—保育学生の手作り人形から派生する関係性」	単独	平成 22 年 5 月 23 日	日本保育学会第 63 回大会 (松山東雲女子大 学)	保育学生が保育所の 2 歳児にひとり一体の人形を製作した。その過程における学生の意識の変化を検証した。保育学生は子どもが自分の人形を持つことに肯定的で、製作過程において人形に対する愛着を抱き、子どもと人形の関係性への期待、保護者への期待を持つなど、プラスの変化が確認された。学生自身が人形と実体的関係を築き、子どもと人形の関係性への期待を持ち、実習以外の機会に子どもや保護者への思いを巡らし、想像的關係性を持つことが明らかになった。
10「低年齢児のあそび環境-保育園児が自分の人形を所有することの意義-」	単独	平成 23 年 5 月 22 日	日本保育学会 第 64 回大会 (玉川大学)	保育所に通う2歳児が自分の人形を持つ保育環境について、保護者と保育者の視点から考察した。保護者は子どもと人形の関わりから、子どもの認知の発達や情緒の安定への変化を感じている。保育者は子どもの遊びや行動の変化を認識し、情緒の安定につながっていることを認めている。保護者及び保育者は共に子どもが自分の人形を持つ保育環境を肯定的に評価していることが明らかになった。
11「低年齢児の遊び環境2-子どもと自分の人形とのかかわりに着目して-」	単独	平成 24 年 5 月 5 日	日本保育学会 第 65 回大会 (東京家政大学)	保育所の1・2 歳児と自分の人形とのかかわりについて、保育者及び保護者への質問紙調査、保育者への聞き取り調査を実施した。人形の世話遊びが顕著に確認され、大人の模倣や生活の再現がなされ、かわいがられる存在からかわいがる存在への契機になっていること、人形が入眠時の安心材料になっていること、人形が家庭と園とのつながり・移行を円滑にする仲介的役割を担っていることが明らかになった。
12「保育学生の玩具についての認識-幼少時の玩具体験から-」	単独	平成 25 年 5 月 11 日	日本保育学会 第 66 回大会 (中村学園大学)	保育学生の幼少期の玩具・遊び体験・遊び観・玩具について質問紙調査を行った。玩具の質や量を重視し、電子ゲームを幼児に与えることには否定的である。しかし、知識不足からか、自分が子どもの玩具を選択したいという意欲は低い。玩具に好感をもち、保育に導入したい、玩具の知識を得たいという意欲は高いので、養成課程において玩具体験・玩具についての学習の機会を設ける必要があることを述べた。
13「保育者養成における『木育』の実践が保育学生に及ぼす影響—保育に役立つ『箱椅子』づくりを通して—」	単独	平成 26 年 5 月 18 日	日本保育学会 第 67 回大会 (城南学園・大阪 総合保育大学)	保育学生が「木育」活動として幼児用の杉の椅子作りを体験した。事後の振り返りシートの分析と聞き取り調査を行った。①制作の楽しさと木への知識・関心の高まり、②作品への愛着と次への意欲、③仲間との助け合いやコミュニケーション、④目の前にいない子どもへの思い、安全への配慮、実習への意欲などが確認され、保育学生が木育活動を行うことの効果が明らかになった。
14「保育者の専門性教育が保育学生の意識に及ぼす影響—保育者養成プログラムの構築へ向けて—」	共同	平成 26 年 5 月 18 日	日本保育学会 第 67 回大会 (城南学園・大阪 総合保育大学)	伊澤永修、永房典之、川村祥子、尾崎博美、善本真弓、山路千華 保育者の専門性について保育学生3学年を対象に質問紙調査を実施した。「実習経験のない1年生は「子どもの身体・健康の知識」をあげているが実習経験を経た2年生以降は上位項目ではなくなっている。「観察力」「共感力」を重視する傾向は実習の前後で(経験によって)変化しない。実習園の保育内容の影響を受け、運動やピアノ、歌などの「保育技能」については実習後に顕著に増加している。

15「保育者養成における『木育』の実践が保育学生に及ぼす影響Ⅱ-『箱椅子』づくり・2年目に生まれた保育者としての資質」	単独	平成 27 年 5 月 10 日	日本保育学会 第 68 回大会 (椋山女学園大学)	前年度に幼児用木製箱椅子制作を体験した保育学生が、新規作成者のサポートをする「木育」の継続的実践の効果をも、振り返りシート、質問紙調査の結果から検討した。昨年経験者は、制作者の視点ではなく、後輩を見守る・支える・教えるなどの援助者としての立場を意識していた。さらに、将来、子どもと一緒に活動することを想定して、指導のポイント、働きかけの仕方、安全面の援助、環境への配慮について学んでいることが明らかになり、保育者としての資質の育成に有効であったことが確認された。
16「保育者養成校の学生における『保育者の専門性』獲得の構成要素」	共同	平成 27 年 5 月 10 日	日本保育学会 第 68 回大会 (椋山女学園大学)	汐見和恵、尾崎博美、伊澤永修、永房典之、善本眞弓、山路千華 「保育の専門性」について、保育学生・3年生への面接調査と質問紙調査を実施した。実習経験を経て、「遊び力」「発達の知識」「文章力」「子ども・家庭への援助方法」等、実践的な内容が挙げられた。3年間の授業・学生生活からは、「子ども理解」「コミュニケーション力」「広い視野」「子ども・保護者への姿勢」「観察力」「想像力」「人としての豊かさ」など、人間理解や自己の豊かさなどの抽象的な回答が見られた。知識・技術の習得を前提とした豊かな感受性や人間関係を育む機会、人としての育ちや自尊心を高める経験など、今後の学生生活や授業、体験プログラムの構築に必要な要素が確認された。
17「おもちゃを活用した保育所における子育て支援」	単独	平成 28 年 5 月 7 日	日本保育学会 第 69 回大会 (東京学芸大学)	地域子育て支援の一環として保育所内で開催している、おもちゃを活用した「ひろば」活動について、保育所関係者、外部支援者に半構造化面接を実施した。「ひろば」には〈地域型〉〈合同型〉〈一部合同型〉があり、いずれも地域の親子にとって安全性が確保された場であり、保育の専門家(保育士)と親しみやすいおもちゃがあることで安心感がもて、間接的に子どもへの関わりが学べ、保育所への理解も深まるなどの利点が明らかになった。保育士にとっても子どもを客観的に観る機会、多様なおもちゃを知る機会になっている。外部支援者の存在は子どもが園外の多様な人と関わる機会・遊び相手となり、おもちゃの知識を伝達する役割も担っているなど、その有用性が明らかになった。
18実習における事前学習「保育教材作成の効果」	単独	平成 29 年 5 月 20 日	日本保育学会 第 70 回大会 (川崎医療福祉大学)	保育者養成校における保育実習Ⅱ(保育所実習)の事前学習として保育教材を作成した保育学生の意識についてリアクションペーパーから分析した。ペーパー作成学生は8割以上、パネルシアター作成学生は全員が作品に満足していた。実習園の事情や対象年齢等の関係により使用できなかった学生についても、次期の幼稚園実習で使用したい、将来使える、など作成したことについての否定的な意見は全く見られず、作成により実習へのモチベーションが高まった、不安が軽減した、将来への希望などが見出された。実習前の保育教材の作成は学生にとって意味のあるものになっていることが確認された。

19「幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方」	共同	平成 29 年 5 月 20 日	日本保育学会 第 70 回大会 (川崎医療福祉大学)	野田日出子、善本眞弓、山路千華 保育者養成課程で学ぶ学生が、事前指導での学びや、実習中の養成校教員による巡回指導をどのように捉えているか調査した。その結果、学生が実習への不安を解消するために、現場での実践にすぐ活かせるような保育実技に関する事前指導の充実を求めていることがわかった。巡回指導については、学生の不安解消や助言によるその後の実習への意欲向上に繋がっていた。
20「幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方Ⅱ」	共同	平成 30 年 5 月 12 日	日本保育学会 第 71 回大会 (宮城学院女子大学)	山路千華、善本眞弓、坪井瞳 保育者養成校（4 年制大学）から実習園に依頼する教育実習（幼稚園）の評価票について調査・分析した。9 大学の評価表の内容は 18 項目に分類され、「資質」「実践の基礎能力」「子ども・発達理解」「計画立案・実践力」の 4 グループにまとめられた。さらに、各養成校で重視している内容を検討し、「資質重視型」「実践基礎能力重視型」「バランス型」「計画立案・実践力+重視型」の 4 つのモデルが抽出された。各大学の実習生への期待の内容が異なることが明らかになった。
21「養成校の実習指導に対する保育所からの期待-巡回指導を中心に-」	共同	平成 31 年 3 月 2 日	日本保育者養成 教育学会 第 3 回 研究大会 (東北福祉大学)	善本眞弓、山路千華、坪井瞳 関東圏内認可保育所 10 園の園長または実習担当者に養成校の実習巡回指導について半構造化面接を実施した。実習園では学生の困難な不安を聴取し、それを実習園に伝える仲介を求めていることが明らかになった。巡回担当教員は学生と面識があり学生のことを把握していること、巡回時には対面し話を聞くことが必要である。巡回時には①園側の評価を聴取→②学生と面談→③学生の様子を園に伝えるという一連の流れを提案することができた。
22「幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方Ⅲ」	共同	令和元年 5 月 5 日	日本保育学会 第 72 回大会 (大妻女子大学)	山路千華、善本眞弓、坪井瞳 幼稚園教諭養成課程をもつ 4 年制大学における実習依頼園（幼稚園・認定こども園）を対象に、養成校の実習指導および実習巡回について半構造化面接を実施した。実習生には明るさや挨拶などの基本的姿勢と同時に「質問生成力の養成」が望まれ、子どもとの関わり、子ども理解・発達理解、日誌の記載、指導案立案等の実習に必要な要素が求められている。実習園と養成校が実習生の育ちの視点を共有するために養成校の教員はより実習園に学生の育ちを伝え、連携すること、具体的な方法論・理論化・構造化して伝える必要がある。
23「実習記録の分析-4 年制大学の保育実習に着目して」	共同	令和 2 年 3 月 1 日	日本保育者養成 教育学会 第 4 回研究大会 (福山市立大学) 開催なし発表認定	善本眞弓、小山朝子、首藤久枝、坪井瞳 関東圏内保育者養成課程のある 4 年制大学 10 校の保育実習Ⅰ・保育実習Ⅱ（保育所実習）の実習日誌について、事前・実習中・事後における記録の内容について比較・分析した。 ①事前記録：実習園の理解、実習への準備、②実習中の記録：目標・目的、子ども・保育を見る視点、指導者からのコメントによる省察、③事後記録：振り返り、講評、次期への課題設定の契機、などの意味が見出せた。②の記録形式については「時系列型」「エピソード型」の他、「ドキュメンテーション型」も見られ、柔軟に対応できるよう、養成校の指導を検討していく必要がある。

24「幼稚園実習における効果的な実習指導のあり方Ⅳ」	共同	令和2年 5月16日	日本保育学会 第73回大会 (奈良教育大学) 開催なし発表認定	山路千華、吉田久実、善本眞弓 保育者養成校(4年制大学)8校の教育実習(幼稚園)の実習日誌の構成と内容(表紙、実習前、実習中、事後、実習先への提出書類)の五種について分析した。全ての大学において実習前後より実習中に記入する内容・項目が多く、養成校および実習園から実習の内容について判断されるものであることから、記録の仕方について事前の教示の必要性が改めて明らかになった。記載項目は共通するものが多いが、独自の項目も見られ、実習に対する養成校独自の期待が込められているものであることが示唆された。
【その他】 (活動報告) ・「神奈川県立子ども医療センターにおける病児の遊び支援活動」	単独	平成20年 10月10日	内閣府・神奈川県 官民連携子育て支援フォーラム全国リレーシンポジウム 神奈川県大会分科会「地域における子育て支援」発表	神奈川県立子ども医療センターの外来プレイコーナーおよび病棟プレイコーナーにおける「おもちゃの広場」(長期入院児、通院児と家族に対する遊び支援活動)についての活動報告を行うとともに、病児にとって遊びの必要性と意義、家族支援について発表した。
・病児と家族へのおもちゃと遊びの支援活動	単独	平成21年 3月20日	第4回公開セミナー「病児と遊びとおもちゃケア」(国立成育医療センター)	pp.30-32 地域子育て支援活動の一環として行っている「おもちゃの広場」における、発達、安全性、衛生管理、コミュニケーションの促進など、おもちゃへの配慮を述べるとともに、子どもの行為・遊びの要素とおもちゃの種類を一覧表にまとめた。さらに、おもちゃの広場における子どものおもちゃとのかかわりから、発達との関連を紹介し、子どもの自発的なおもちゃとのかかわりが表現することの基礎を育むことにつながることを述べた。
(専門誌掲載) ・「赤ちゃんからお年寄りまで楽しめるおもちゃ グッド・トイで遊ぼう!」	単独	平成26年 5月15日	「おさなご vol.280」 長野県私立幼稚園協会編 長野県民新聞社	pp.23-26 赤ちゃんからお年寄りまで楽しめるおもちゃ、人と人とのコミュニケーションが豊かになるようなおもちゃの魅力や厳選グッド・トイ紹介。
・「低年齢児のおもちゃと遊び-表現の基礎を育む」	単独	平成26年 7月23日	芸術教育 2014 Vol.93 芸術教育研究所	pp.30-32 地域子育て支援活動の一環として行っている「おもちゃの広場」における、発達、安全性、衛生管理、コミュニケーションの促進など、おもちゃへの配慮についてまとめ、子どもの行為・遊びの要素とおもちゃの種類を一覧表にまとめた。さらに、おもちゃの広場における子どもとおもちゃの関わりから、発達との関連を紹介し、子どもの自発的なおもちゃとの関わりが「表現」の基礎を育むことにつながることを述べた。
・「おもちゃコンサルタント養成講座」	単独	平成26年 11月1日	「孫の力」第20号 木楽舎	p.130 乳幼児の遊びの大切さについて述べ、乳幼児期に適した玩具を紹介した。
・「木のおもちゃであそぼう!」	単独	平成27年 5月15日	「おさなご vol.281」 長野県私立幼稚園協会編 長野県民新聞社	pp.23-26 乳幼児の五感にはたらきかけるやさしい刺激となる木製玩具の魅力について解説し、国産木材で作られた「木育玩具」を紹介した。
・月刊保育雑誌「保育とカリキュラム」連載	単独	平成30年 4月号～ 現在	ひかりのくに「保育とカリキュラム」『0・1・2歳児の手作りおもちゃ』	低年齢児の発達を考慮した手作りおもちゃの制作・取材・写真撮影をし、保育者の援助や留意事項等の原稿執筆を担当。

・「子どもの成長を育むおもちゃと遊び」	単独	令和2年 9月1日	診断と治療社「チャイルド・ヘルス」 vol.23No.9	pp.52-53 子どもの育つ環境における現代社会の課題について述べ、子どもの成長を育む玩具と遊び、「グッド・トイ」の意義・基準・活用の方等について解説した。
【取材協力】 ・専門誌取材協力	単独	平成22年 3月10日	「おもちゃで遊ぼう 2010, vol13」 NPO 法人日本グッド・トイ委員会	pp.20-21 「子どもたちに玩具と笑顔を届けたい！日本グッド・トイ委員会病児支援事業紹介 report2」
・中日新聞	単独	令和元年 11月29日	中日新聞10版朝刊 p.22	「成長に合わせ新しい教務」の記事について、子どもがおもちゃで遊ぶことによる意義について記事として掲載される。
【テレビ出演】 ・NHKEテレ	単独	令和元年 2月11日～ 14日	NHK「まいにちすくすく」	親子で楽しめる牛乳パックを活用した手作りおもちゃの作り方についての企画提案、および手作りおもちゃの作り方と遊びを紹介。
【シンポジウム】 ・「親から頼りにされる保育者の子育て支援」シンポジスト	共同	平成24年 11月23日	芸術教育研究所 研究交流会・出版 記念シンポジウム	「親から頼りにされる保育者の子育て支援について」の子育て広場での実践についての発表および質疑応答。
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	平成29年 5月20日	日本保育学会 第70回大会 (川崎医療福祉大学)	「0・1・2歳児の遊び・おもちゃ環境-低年齢児の遊びを育むおもちゃ・環境・援助」をテーマにシンポジウムの企画・開催・司会進行を務める。 話題提供者:石井今日子・鈴木真理 指定討論者:多田千尋
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	平成30年 5月13日	日本保育学会 第71回大会 (宮城学院女子大学)	「木育・木製玩具が保育にもたらすもの」をテーマにシンポジウムの企画・開催・司会進行を務める。 話題提供者:池谷善郎・菊地三奈・前野健 指定討論者:多田千尋
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	令和元年 5月4日	日本保育学会 第72回大会 (大妻女子大学)	「配慮を必要とする子どもの保育・玩具・遊び」をテーマにシンポジウムの企画・開催・司会進行を務める。 話題提供者:両角美枝、安田伸枝 指定討論者:多田千尋
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	令和2年 5月	日本保育学会 第73回大会 (奈良教育大学) 開催なし発表認定	「保育に活かす森の恵みのおもちゃと遊び」をテーマにシンポジウムの企画・開催準備を行う。 話題提供者:橋元美穂・青木亮輔 指定討論者:多田千尋
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	令和3年 5月	日本保育学会 第74回大会	「保育の場における子どもの育ちを支えるアナログゲーム」をテーマにシンポジウムの企画・開催・司会進行を務める。 話題提供者:河野和昭 近藤直恵 指定討論者:多田千尋
・日本保育学会 自主シンポジウム 企画・司会	単独	令和4年 5月	日本保育学会 第75回大会	「子どもの手指の発達を促す遊びと玩具」をテーマにシンポジウムの企画・開催・開催準備・司会進行を務める。 話題提供者:谷村寛子・山岡千秋・服部雪絵 指定討論者:石井 今日子